企業名：Ｈ．Ｕ．グループホールディングス

レポート名：統合報告書 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

この会社は中期での改革を目指していて、それに伴う社名変更や未病や healthcare for you というコンセプトからも業界を変え、引っ張っていく改革の本気度と内容がわかり理解しやすいと思った。その内容としては新大型ラボの建設とそれに伴う最先端検査の研究と拡充、コロナ関連事業での業績の維持、大規模な医療情報プラットフォームの整備とグループ内での活用、ＯＥＭの拡大などがわかった。また、従業員への過労を強いた点などアフターコロナでの悪い点や計画に対して社の体力が足りないかもしれないというＣＥＯメッセージ、人権関連の個別アセスメントにおける課題などこれからの懸念点と改善点も少し含まれていたことは良いと思った。反省点が書かれていると内容の信憑性も増し、メリハリがついて読みやすいと感じた。反省点をまとめて書き出すのも良いのではと私は思ったりもしたがまとめるとイメージダウンしそうで文脈に沿ってポイントポイントでネガティブ面を小出しにするこの形で良さそうだとも思った。ホールディングスは複雑な構成要素を持つのでどのような内容かがここまで簡潔であるのはとても良いことだと思った。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

この会社の強みはまずホールディングスであるからこそ各社から集めた大規模医療検査データと、医療技術や知的財産などのノウハウを併せ持っていること。そして現在のコロナ禍で素早く抗原検査を開発、承認を得てＰＣＲに代わるスピーディーな検査として空港検疫で使われるなど普及しコロナ関連事業で大きく社会貢献ができていること。また新ラボなどで徐々に検査や先端研究のオートメーション化を進めていてヒューマンエラーを避けつつコストを抑えて業務量を増やすことができていること。**そして**各地に検査施設を配備し各大学や病院などとの連携を深め器具の納品や検査を素早く行えること。

このように強みがたくさんあり十分に競争優位性は理解できる。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

2020 年に三部門に分かれて始動した 10 年間の改革であるためしばらくの成長は見込めると思われる。また、ＴＣＦＤフレームワークと名付けた将来への対策や事業におけるリスクを各方面に対して想定しておりここに書いていないような未来のリスクについても同様に考慮していることが想定される。また需要の増えそうな検査項目を見極めて開発を準備している点も持続力につながる良い点だと思われる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

コロナ禍の社会を支えている実感が湧くことで会社を愛する気持ちは育つと思われるが、基本的な検査や試薬開発業務は自動化されていて研究、開発職以外の人々にはあまり価値向上を見込めないが、理系や医療系の知識をつけていけばさらなる知識の造詣と新事業や新たな切り口を見つける柔軟な思考力を得られるかもしれないと感じた。

一方でこのホールディングスはグローバルな提携を目指しているので多国籍との交渉や中規模医療機関や大学との提携を目指した交渉を通じて交渉力、語学力は上がるかもしれない。少し残念だったのは企業の詳しい人材の特徴などは触れられておらず、ホワイトさは伝わってきたものの、従業員が共通して持つ強み、長所なども知りたかった。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

ＯＥＭ、Ｒ＆Ｄ、ＣＤＰ、ＢＣＰなどの横文字の意味が初心者にはわからなかったがＰＨＲ、ＩＣＴなどは略語の英語での正式名称が含まれていてよくわかった、米印の語の注釈を最後にまとめてではなくすぐ後ろに置いているのはわかりやすかった。また「新規育成事業およびその他」などといった以前の区分よりはわかりやすいものの、三部門に分けたセグメント名が日本語での事業名を見た上でもわかりづらかった。

財務目標は昨年度の数値と五年間合計の数値目標しかなかったが五年分毎年とはいわずとも次年度分ぐらいは出してもよいのではないかと思った、また 2030 年への中期計画ならば数字は難しくともある程度の 10 年後への見通しや目標は述べてもよいのではないかとも感じた。業務内容についてはコロナ禍での検査の貢献はインタビューなどからわかったが、詳しい日常的な業務内容の様子を写真などを用いて具体的に触れてほしかった。（目玉商品など）しかしどのセグメントにおいてもその構成要素を数個に絞ってわかりやすく並立していたのはとても見やすかった。